

いすゞの環境保全・CSR活動

いすゞは、世界の経済発展と環境保全の調和を目指し、グループ全体で積極的な活動を展開しています。事業活動では、原材料の調達から製造、物流、廃棄・リサイクルまで、車のライフサイクル全体にわたる、環境負荷の低減を重点課題としています。また、さまざまな観点から環境にやさしい持続可能な発展に貢献すべく、日本国内や海外の国々、地域での社会貢献活動にも積極的に取り組んでまいります。

人と地球の未来のために –環境マネジメント–

いすゞは、地球環境保全を経営の重要課題として位置づけ、グループ全体で「連結環境マネジメント」活動を推進しています。1990年8月に「いすゞ地球環境委員会」を発足させて以来、1998年、国内トラックメーカーで初めてISO認証を取得したのを皮切りに、2005年には環境連結全社で「ISO14001」の認証取得を完了しました。

環境マネジメントシステムが適切に運用・改善されているかどうかをチェックするため、毎年厳正な社内監査を行い、マネジメントシステムの改善に結びつけるとともに、「環境・社会報告書」を毎年発行しています。2008年4月には環境推進部を新設し、取り組みを一層加速させていきます。

環境負荷を低減する技術開発 –製品–

トラックに求められる多様な環境ニーズに対応するため、車両全体で環境負荷を低減する最先端の環境技術を開発しています。たとえば、クリーンで高効率なディーゼルエンジンは、「燃焼最適化技術」「排出ガス後処理技術」「電子制御技術」の融合や、軽量化をはかることで燃費改善（経済性）とCO₂の削減（環境性能）を同時に実現しています。

いすゞは過去10年間で燃費を約40%削減し、環境保全に大きく貢献してきました。これからも、環境負荷低減と安全性・経済性を両立させた革新的な技術開発に挑戦していきます。

低公害車の普及を推進

いすゞは、環境にやさしい低公害車の開発にも積極的に取り組んでいます。とくに、交通量の多い都市部の大気汚染防止策として、短距離配送に利用される小型トラックに着目し、CNG（圧縮天然ガス）車、ディーゼルハイブリッド車の開発に注力しています。

特に、CNG車に関しては、「エルフ」「フォワード」のCNG車がともに好評を得ており、なかでも「エルフCNG車」は2007年4月、累計1万台を超える登録台数を達成しました。一方、「エルフディーゼルハイブリッド車」は、車両の減速エネルギーを有効利用することで、CO₂削減と低燃費を実現しています。

燃費のいい運転情報を提供

環境負荷低減をソフト面から支援するのが、いすゞの「みまもりくんオンラインサービス」です。これは、モバイルコンピューティングを活用して、車の運行状況（運転操作情報、エンジン稼働情報、車速・加減速情報、燃料消費情報）を事務所でもリアルタイムで確認し、省燃費や安全運転に役立てる高度運行情報システムです。軽油価格が高騰を見せる昨今、お客様から高い評価を得ています。2007年の改良で、新たに「ECO安全運転レポート」や「インターネットドラレコ」等の新機能が加わり、より一層効率的な運行管理を可能にしています。

このほか、いすゞの講習会「省燃費や安全運転に関するセミ



ナー」が2007年、交通エコロジー・モビリティ財団からエコドライブ講習カリキュラムとして認定されました。

環境に調和した工場づくり -生産-

環境に調和した工場 / 地域に開かれた工場のために、以下4点を重点課題として国内外のグループ企業、関連企業と連携して取り組んでいます。

- 1) 地域温暖化防止
- 2) 循環型社会の形成、廃棄物の削減
- 3) 汚染のない社会、環境負荷物質の削減
- 4) 環境マネジメントの活性化、環境法令遵守

生産部門では、CO₂の削減目標を「2010年度までに1990年度比50%減」とし、2006年度に達成しました。2007年度の排出量は18.4万トン、前年比で原単位2.1%の削減実績となりました。具体的には、省エネ委員会による活動パトロール、エコストップ・エコアイドルの活動推進、塗装工場の再配置・合理化、栃木工場での燃料の天然ガス化等を行いました。

いすゞの社会貢献活動

各国グループ会社においても地域社会活動に積極的に取り組んでおり、それらを通じて、グローバル社会の一員とし

ての役割と責任を果たしていきます。

■ 南極観測隊に48年間にわたり協力

南極でオゾン層破壊や地球温暖化などを調査・解析する日本の観測隊に協力し、第1次～48次まで継続してディーゼル技術者を派遣しています。現地では、主に基地全体の維持・管理やトラック、雪上車の整備などに協力しています。

南極では、オゾン層破壊や地球温暖化などの解析が行われており、いすゞ製の車両やエンジン（雪上車／発電用）が設備面でも活躍しています。

■ アジアの子どもたちの教育を支援

アジアでは、いまなお経済的困窮から、子どもたちの就学率が極めて低く、教育が不十分な地域が存在しています。いすゞはグローバル規模での社会貢献プログラムの一環として、2007年春から、ラオス国境に近いベトナムのディエンピエンフー、インドネシアのティモール島西部の町クバンで、現地の小学校などを対象に子どもたちの教育機会を増やし、教育の質を高める支援プロジェクトをスタートさせました。